医学部5年生を対象とした問題解決型アプローチによる実習「医師不足時代の女性医師の社会活用」について

【H.23. 8.22-9.2 帝京大学医学部公衆衛生学実習】

実習の背景：帝京大学医学部公衆衛生学実習は医学部5年生の夏期に毎年2週間（実習：7日、発表会2日、テスト1日）で行われています。1学年約100名をテーマ別に14班のグループに分けテーマごとに問題分析を行い、具体的な解決法を提示することを課題としています。女性医師問題については5年くらい前からテーマの1つに採用しています。
H.23年度の対象者： 男子学生3名、女子学生4名
課題： 「昨今の医師不足時代における女性医師の活用を促すにはどうしたらよいか」
問題解決型アプローチとは： 問題解決パラダイム方式のステップには次の1-5があります。
1. 問題の明確化 問題点を明確にし、仮定されていること、影響の大きさと広がりについて述べる。問題の明確化は、複数の利害関係者(stakeholder)たちの立場から設定される。
2. 問題の程度 問題点、罹患率、有病率、経済的影響、人間への影響などの大きさを、なぜそれが 公衆衛生上の問題となるのか、なぜ解決すべきなのかという理由とともに定量的に述 べる。測定には、問題の明確化に一致した指標の採択が要求される。
3. 主要決定要因 主要な生物学的、発展的、社会文化的、行動的、環境的決定要因を明らかにし、リスク因子やリスクのある行動、疾病の自然経過、問題の性質に係わるその他の知識について述べる。主要決定要因とは、問題となる状況を引き起こしている要因や解決に重要と思われる要素のことである。共通点のないリスク要因を論理的方法で結果と結びつかせ、それぞれの要因の相互関係を系統づけて介入方策へと導く原則を組み立てる。
4. 予防/介入方策 現在行われている予防や介入の方策をその他付け加えられる選択肢または代替案とともに述べ、検討する。
5. 方針と優先順位の設定 先に挙げた考えられる予防/介入方策について利点と欠点を評価比較する。可能なかぎり、個人や社会に対する利益、費用、技術的政策的実現可能性、実施の容易さ、考えられる障害について考える。方針立案プロセスには知識基盤と政治的意志、社会的戦略という3つの要素が含まれる。
6. 推奨案の特定 推奨すべき解決策や案を先に検討した選択肢より特定し、選択の根拠を述べる。 方針立案プロセスには代替案のある戦略の中から選択して、政策を方向づけることが含まれる。
7. 実施と評価 推奨提唱した解決策や案を実施する上での障壁や実現へ向けてのステップを確認し、実施した結果や影響を評価する方法を提示する。
出典：ケースメソッドによる公衆衛生教育　第4巻　矢野栄二・竹内武昭　編著

実習スケジュール

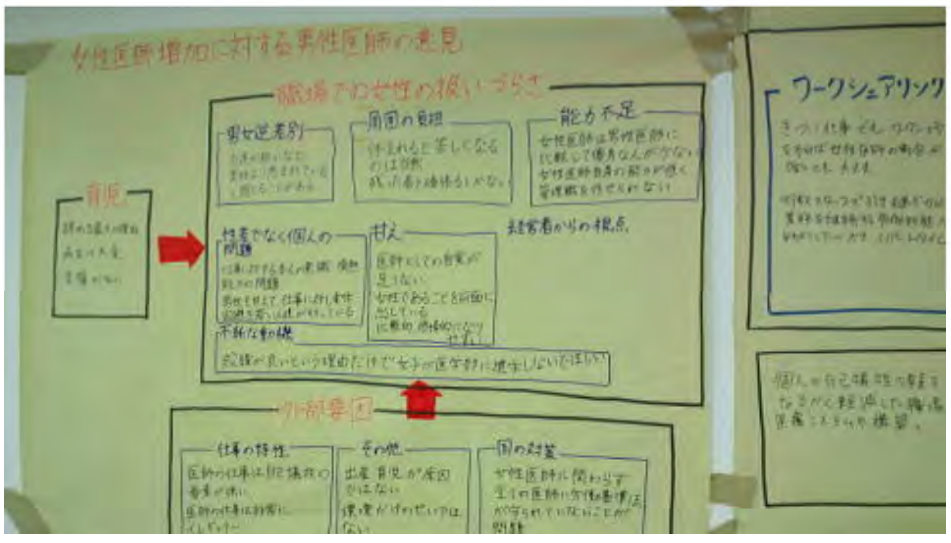
実習1日目：初日は全体オリエンテーションと個別グループに分かれて自己紹介、実習前課題発表としてベッドサイドクラークシップ（臨床実習）中に遭遇した女性医師へのインタビューについて発表。個々の事例に対し、現場の問題点列挙。
午後は女性医師の社会活用と医師不足の背景について要因分析（資料収集しグループ内討論）。同じ医師という職種でも、男女のみならず、独身で働いているグループ、子育てと仕事を両立しているグループ、専業主婦となって離職しているグループ、独身でもパートタイマーであるグループなどいろいろなグループが存在することに気付く。

実習2日目： 1日目で気付いたグループのうち、男性医師に着目。男性医師が女性医師の就労についてどのように感じでいるのか、私立医科大学合同調査の自由意見を用いてKJ法にて分析。外部講師として順天堂大学医学部公衆衛生学教室の山崎由花先生に指導していただいた。

長時間労働など劣悪な労働現場で産前産後休暇を取得すると
男性医師に大きな負担をかけていることがわかった。

育児支援の不足や外部要因の他
職場での女性の扱いずらさとして

女性医師の甘え、男女逆差別、周囲の負担、能力不足、自覚不足
など厳しい意見も目立った。



実習3日目：男性医師の認識を理解した上で、それぞれのグループに所属する医師たちの利害関係について討論を行いました。いろいろなグループの医師がお互い気持ちよく仕事をする環境についてそれぞれの立場から考え意見交換を行いました。女性医師の活用を促すワークシェアリングやパートタイマーについて、利害関係のある医師の立場からその是非について考え議論しました。さらに卒前教育として、医師の社会的責任を理解することや医師になる自覚を持つことが重要であると指摘があがりました。
午後は医師という人生について概観し、中でも最近の研修目標にあるプライマリケア医の育成に着目しました。現在、医師不足対策として、一人の医師が幅広い診療能力を持つことが重要であると言われています。また研修医においてもプライマリケ医に関心のある割合は多くなっています。研修医調査より近年の研修医の診療科選択傾向とその決定因子について学術論文から現状を知り、プライマリケア医と専門医の違いを歴史的な研修制度の変遷、厚生労働省の政策、関連学会や開業医などいろいろな立場から検討してみました。

実習4日目：秋田大学医学部総合地域医療推進学講座の蓮沼直子先生にアドバイスをいただき、自分史を作り、キャリアデザインを試みました。キャリアとは客観的な側面と主観的な側面があり、キャリアデザインは後者に対して行うことができます。よいキャリアとは①自分ができること②自分がやりたいこと③やるべきことが一致するものであると言われています。キャリアは人それぞれ異なるものであり、人生の節目でキャリアデザインをすることが必要です。最初の数年はあらゆる荒波を乗り越える筏下りでいいのですが、その次の5年は目標を自分でみつけて山を登らなければならないと言われています。実習では医学部5年生という卒前の時期に今後5年以内に想定されるイベント、国家試験受験、研修先選択、認定医専門医取得、結婚などを見据えてキャリアデザインをしてもらいました。またよいキャリアを作るために必要な基礎力12個があり、それぞれについて発表してもらいました。自己採点と友人からの採点で改めて自分の長所と短所を再認識することができました。

実習5日目：先輩女性医師である立川で開業されている井上裕子先生に会いに行きました。井上先生は井上レディースクリニックの理事長で、分娩という新しい命に出会う職業の魅力についてお話をしていただきました。裕子先生がライフワークとして取り組んでいらっしゃるピンクリボン（婦人科がん検診）の活動や、母子の絆をテーマにしたマザーシップの活動などお話していただきました。学生さんたちからは産婦人科医という医師がとてもやりがいのある分野であり、女性医師の活躍を大きく広げるの可能性があることを認識した声が聞かれたほか、母校の先輩の活躍を目の当たりにし、ロールモデルと認識し、今後の医療人としての人生に糧を得られたという声が参加した全員から聞かれました。

実習6-7日目：発表会準備　1週目の実習の内容を20分の発表マテリアルに盛り込んでいきます。

実習8-9日目：発表会

実習10日目：試験・解説・発表会表彰
結果報告：今年の女性医師班は「よく勉強したで賞」を受賞しました（確率：1/7）。お疲れ様でした。

参加した学生からの声

Aさん：日本の医師不足の現状を改めて知りました。また、そんな中での女性医師の役割が想像以上に大きい ことを知りました。自分に自覚が足りなかったことを反省しました。 将来、幸せな家庭を持ちたいとは思いますが、ずっと「医師」を続ける覚悟を忘れてはならないと感 じました。 これからも、先生に教えていただいたキャリアプランを参考に、時々自分の気持ちを整理していくつ もりでいます。

Bさん：勉強だけでなく先輩女性医師として私達にこれからどのように過ごして行けばよいか 、たくさんのご指導とヒントをいただき、大変貴重な実習となりました。

Cさん：今回の実習では今まで知らなかった女医の現実を知り、想像していたものより厳しいものだと分かりました。将来について深く考える良い機会になりました。

Copyrightc 2011医師不足時代の医療を支えるために～文部科学省研究成果公開～All Rights Reserved.
サイト内の記事・写真・アーカイブ・ドキュメントなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。